

飛矢崎眞守回顧展

2026.10.17(土) ▶ 11.15(日)

—その画筆（ふで）で甦る、昭和の信濃—

絵を描きたかった青年は、戦争へ行った。

そして、生きて帰り、再び筆をとった。

飛矢崎眞守（1922—2012）は、長野県師範学校で美術を学んでいた青年時代に海軍へ召集され、重巡洋艦「愛宕」に乗り組みました。レイテ沖海戦で艦の沈没に遭い、九死に一生を得て帰還。戦後は長野県の中学校で美術教師として教壇に立ちながら、生涯にわたって絵を描き続けました。

日展や一水会などに作品を発表する一方、やがて中央での名声や評価を追うことから離れ、目の前の風景に心を動かされるままに、自転車に画材を積んで各地を巡りました。自作のパレットを手に描いた山や川、田畑、集落、学校、人々の暮らし——。その画面には、移りゆく昭和の信濃と、そこに生きた人々の時間が刻まれています。

戸倉上山田中学校では17年間教壇に立つなど、長年にわたり美術教育に携わりました。一人ひとりの個性を大切にした教育と飾らない人柄は、今も多くの教え子たちの記憶に残っています。

没後、2017年には故郷・阿南町で「飛矢崎眞守遺作展」、2018年には千曲市「アートまちかど」で「飛矢崎眞守記念展」が開催され、多くの教え子や地域の人々が訪れ、その作品と人柄があらためて注目されました。

本展では、日展入選作をはじめとする代表作から、これまで一度も展覧会に出品されたことのない初公開作品までを展示し、その人生と画業を振り返ります。

絵を残した人であると同時に、人の心に残った人——飛矢崎眞守。

そして、本展をもって、遺族が主催に携わる飛矢崎眞守の展覧会は最後となります。

かつてその教壇で学んだ方にも、初めてその作品に出会う方にも。

2026年9月 飛矢崎雅也（眞守孫）

一人の人間が、生き、教え、描いたもの。

その画筆で甦る「昭和の信濃」を、どうぞ最後の展覧会でご覧ください。



《自画像》



《レイテ突入》



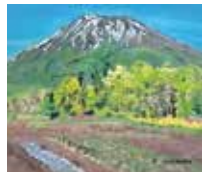
《長野駅》



《お彼岸の善光寺》



《菅平と麦畑》



《残雪の黒姫山》



《緑の印象》



《秋の樫花大橋》



《冬の犀川の夕方》



《自画像》



《戸倉上山田温泉と千曲川》

飛矢崎 眞守（1922-2012）

- 1922年 長野県下伊那郡大下条村に生まれる。
- 1937年 長野県師範学校入学。大沢佐一に師事。
- 1940～41年 東京美術学校の石井鶴三に師事。
- 1942年 師範学校卒業。下伊那郡旦開国民学校に赴任。
- 1943～45年 海軍従軍。重巡洋艦「愛宕」、戦艦「長門」に乗組。
- 1948年 再度、石井鶴三に師事。
- 1949年 更級郡下氷鉤中学校（現・更北中学校）へ赴任。
- 1951年 一水会初入選（二点）
- 1952年 日展初入選（五室） 光風会初入選（三点）
以降 日展 七回入選 一水会 十一回入選
光風会 二回入選
- 1963年 中央画壇への出品をやめる。以後、小作品へ専心。
- 1965年 北信展審査員・県展無鑑査（受賞一回）
- 1971年 公募展覧会への出品いっさいやめる。
- 1985年 戸倉上山田中学校を最後に、教壇をおりる。
- 1999年 油彩画の制作を止める。
- 2012年 長野県長野市にて逝去。89才。
- 2017年 長野県下伊那郡阿南町より文化芸術振興に関する感謝状を授与される。
阿南町美術館にて『飛矢崎眞守遺作展』を開催。
- 2018年 アートまちかどにて「飛矢崎眞守記念展」を開催。

特別開催 チャリティー頒布会

生涯2000余点の作品を遺した飛矢崎眞守。一部作品をご遺族のご厚意によりチャリティー頒布いたします。（売上は、千曲市の文化振興等に役立てられます。）

会期中イベント ギャラリートーク

『絵の向こうに、先生がいる』

11月15日(日) 10:00～11:00

参加費無料（要当日観覧券）・予約不要

遺族・教え子・学芸員が語る画家・飛矢崎眞守の人となり、その作品世界。

｜会場・お問い合わせ・アクセス｜

千曲市アートまちかど

◆休館日：月曜日（祝日は閉館）・祝日の翌日

◆〒387-0007 長野県千曲市屋代 2176-2

TEL 026-272-4152

◆しの鉄道「屋代駅」車5分／徒歩15分

長野自動車道「更埴IC」車5分

